「井戸」初めの感想

「井戸」の学習に入った。すでに、朝自習で音読練習などはめいめいでやっているのだが、あらためて、もう一度私が朗読した。そのあと、みんなに感想を書いてもらった。その感想を整理してみた。

丑についての感想

◎「ともだちがいない丑」

・丑はいじめられているから、ともだちがいないと思う。（真人）

◎「かわいそうな丑」

・丑は、いろいろなめいれいをきいて、水をくみあげたり、いじめられたりしてるでかわいそうと思いました。毎日いじめられて、水くみを1日でも五はいや六ぱいくむのがえらいのやのに、毎日それをやらされているから、かわいそうと思った。みんな丑をいじめているから、丑は、いろいろのもんくもいえない。（勇也）

・みんな掃除当番の水くみがいやだから、丑にさせるので本当にかわいそう。（菜穂子）

・丑を水くみ専門のやくめにしたのはかわいそうだと思う。いくらそうじをやりなおさされても、丑だっていっしょうけんめいやっているんだから、やっぱりかわいそう。（幸則）

・先生が「だれか井戸の中にはいってみるもんはないか。」といって、「丑がいい」とみんなはいって、丑はいやなのにはいらせるから、みんなにむりやり入らされてかわいそうだなと思います。（留美）

◎「でもそれもしかたがない。」

・丑はなんだか、かわいそうだと思った。いつも水くみのやくをやらされて、でも、そうじがだめならしょうがないと思った。（美希）

◎「がまんづよくて勇気がある丑」

・丑は、みんなよりどきょうがあるなあと思った。丑が井戸に入るとき、「いやだ」と大きな声で言わなかったというところでそう思った。（大輔）

・こわがらへんで、へんなやつとおもった。（智士）

・丑という子は不器用だけど、勇気があるなあと思いました。他の生徒からもんくとかいわれていたけど、丑は、何も言わなかったので、えらいなあと思います。（明子）

・水くみがいやでいやでしようがないけど、がまんしてもんくをあまり言わないし、つるべから下へおりるのでも何も言わないでおりたので、すごいなあと思いました。（智子）

・丑は、ずっと何もいわずに水くみをしているから、えらいと思う。（美豊子）

◎「いやだ」とはっきり言ったらいいのに

・丑もいやといったらいい。大声でそんなもんはいるかっていったほうがいい。（力）

・8ページの12行目から読むと、丑は勇気のある少年だなあと思った。この勇気で生徒たちにもんくを言えばいいのに。（亜紀子）

・いやだ、と大声で言ったらいいと思う。（善崇）

・丑もみんなが言うでしかたがないかもしれんけど、いやならいやとはっきりいえばいい。（幸則）

・他の子だったら、丑みたいにつぶやかなかったと思う。（佐夜子）

◎「みんなにしかえしをした丑」

・丑は、不器用だし、おとなしいから、みんなにもんくをいわれても言いかえさなかったからばかにされっぱなしだったろうけれど、さいごにうそをついて、井戸に入らしたりいやなことばかりやらしているみんなにしかえしをしたのだろうな。丑は、みんなのいいなりになっているのががまんできなくなって、はんこうしたのだろう。（真ひと）

・さいごに大たんになってうそをついたさかいにすうっとしたと思った。（善崇）

・丑は、みんなからきらわれて井戸の中に入れられている。丑は、みんなにいつもいじめられているで、いっぺん丑は、みんなを逆におどろかしたろと思ってる。（貞幸）

・最後の方の丑がうそをついてまでもあんふうにいったのは、いつもいじめられているおかえしをこの時にしてやろうと思ったから、フットボールの皮をねこっこでやんすとうそをついたんだなあと思いました。（智子）

◎「丑もいじわるだ。」

・いくら、いやいや入れられたんでも、いじの悪いことはしない方がいい。（幸則）

・丑が井戸の中に入ることになったとき、丑はだんだんいじわるになってきて、ほかの生徒になんだか、いやがらせやしかえしをしているようだった。やっぱりうそをつくのはよくない。（美豊子）

・かわいそうだけど、いじわるでもある。（和美）

・くやしかったら入ってきてみと心の中でみんなをばかにしている。丑はちょっとだけ悪いやつや（貞幸）

◎「はじめより終わりの方が強くなっている丑」

・丑は、初めより、終わりの方が強くなっているなと思った。それは、他の生徒が丑に何かいっても丑は何も言い返さず聞いてやっていたが、後の方では他の生徒が何が落ちているのか聞いたとき、口に出してつぶやいたり、いやだといっている。だからそう思った。（裕幸）

・丑は、はじめ気がよわそうだけど、井戸の中に入ってから強気になった。（保）

・最初、丑は弱虫だったけど、つるべで下におりていくと、強気になってきて、「おもしろいな、丑って」と思った。（暢子）

他の生徒・先生について

◎「まわりの生徒」

・まわりの生徒はいじわるだと思った。みんなが「井戸の中へおりてくれ。」てたのまれたときに、いやだから、丑をむりやり井戸へはいらしたから、「みんなってはくじょう者だな」と思った。（暢子）

・自分がいくのがいやだから丑におしつけて自分は入らないので、みんなはいじわるだなあと思いました。（寛子）

・まわりの生徒は、井戸に入る時、自分が入るのがこわいので丑にやらせたと思う。自分がこわいので、人におしつけるようにやったのだろうと思った。（美希）

・まわりのみんなは、自分より弱いやつをいじめて、いやな仕事をぜんぶ丑にやらす。それを見ている先生はなにしているんかなと思う。（真人）

・友達もひきょうやと思う。ちょっと自分がいきとうないと思ったら人になすりつける。（力）

・根はこわがりなのに、いつもいつも丑が何もいわないとおもっていばっているのであまりよいひととは思いませんでした。（智子）

・まわりの生徒は、丑が不器用だから、ばかにしていると思った。（亜紀子）

◎「先生」

・先生は、丑のことをばかにして、先生にはもんくをいわんと思っていろいろなめいれいをしている。（勇也）

・先生は、自分がこわいで丑にやらしたかもしれん。（真人）

・